

第 42 回宮崎海岸市民談義所 議事要旨

日時：令和元年 7 月 25 日(木) 19:00～21:15

場所：佐土原総合支所研修室

参加者：

□市民：17 名

□宮崎海岸市民連携コーディネータ：

吉武教授(九州工業大学)、高田准教授(神戸高専)

□行政関係機関：

(国)宮崎河川国道事務所、宮崎海岸出張所

宮崎港湾・空港整備事務所

(県)河川課、港湾課、宮崎土木事務所

(市)建設部土木課、佐土原総合支所農林建設課

(その他)宮崎県道路公社

実施内容：

事務局より開会の挨拶、国、県、市の出席者の紹介を行った後、高田宮崎海岸市民連携コーディネータ(以下「コーディネータ」)の進行により談義が進められた。

まず、事務局より「第 41 回宮崎海岸市民談義所の振り返り」、「第 1 回宮崎海岸サポーターズ 身近な海岸をもっと知ろう!」の開催状況を報告、「宮崎海岸の侵食対策のおさらい」、「対策の評価」に続いて「今年度の工事予定」および「第 2 回宮崎海岸サポーターズの開催予定」を説明し、これを踏まえて談義した。

※会議の開催前 30 分程度で、従前より参加している市民と初参加の市民との知識のギャップを埋めるとともに、市民談義所への理解を深めるため、来場者の質問に回答する相談窓口を開設した。

～「第 41 回宮崎海岸市民談義所の振り返り」「第 1 回宮崎海岸サポーターズ 身近な海岸をもっと知ろう!」の開催状況」について～

事務局より第 41 回宮崎海岸市民談義所の開催概要を資料に沿って説明した。その前回談義所の中で、参加者から提案された対策工法について意見交換の場を設けることとしていた件についても、実施状況を報告した。続いて「第 1 回宮崎海岸サポーターズ 身近な海岸をもっと知ろう!」の開催に協力を得た漁業者へのインタビューを交え、開催状況の報告をした。コーディネータのインタビューに対し、漁業者から「子どもが海岸にいる風景を見て嬉しかった」などの発言があった。

(会場からの質疑は特になし)

～「宮崎海岸の侵食対策のおさらい」「対策の評価」について～

事務局より「宮崎海岸の侵食対策のおさらい」を資料に沿って説明した。このうち、宮崎海岸の侵食対策である、養浜、突堤、埋設護岸について、海域から砂浜の砂を増やしたりとどめたりする「3つの機能」をイメージ図等でわかりやすく説明した。続いて、平成30年度の調査結果に基づく「対策の評価」の主要ポイントとして、「非常に大きな波浪が来襲するも海岸は守られたこと」「宮崎海岸の風景が広く評価されたこと」「地形変化の特徴について」「自然環境の特徴について」を資料に沿って説明した。

(会場から環境変化の見解について参加者からの質疑があったが、後半に合わせて談義することとした)

～「今年度の工事予定」「第2回宮崎海岸サポーターズの開催予定」について～

市民談議所の最後に、事務局より今後の事業の進め方の方針と早期砂浜形成等を目的とした養浜等の工事予定を資料に沿って説明した。続いて、第2回宮崎海岸サポーターズの開催予定を説明し、運営協力やアイデア募集の声掛けをした。

(会場からの質疑は特になし)

～談義～

ここまでの説明を踏まえて「最近の海岸・砂浜・風景について、気づいたこと・感じていること」「養浜、突堤、埋設護岸の効果や影響について(砂浜の回復や生き物、利用など)」「参加・体験型談義(宮崎海岸サポーターズ)について」などを参加者が付箋紙に記入し、空中写真の該当する箇所に貼り付けた。その後、空中写真を市民、事務局とコーディネータが囲みながら談義した。

[参加者]

- ・環境省のレッドデータブックと別に宮崎県でも独自にレッドデータブックを作成している。地球温暖化の影響で、レッドデータブックの掲載種は鳥などだんだんと変化が出てきているのを私は確認している。海の問題としては、自分が小学校くらいの時にはシャコが海岸にいたが、今はいるのかどうか。何か変化があってもおかしくない。楽観的に考えてよいのか。

[事務局]

- ・ご指摘のとおり、地球温暖化の影響があるのか、以前は見られなかった種が出

るということは個別には少しずつはある。

- ・海岸は種の変動が激しいが、その中でどれかの種が一方的に減ったり増えたりという傾向は見られず、工事が影響して何か悪くなっているというのは今のところない。なお、シャコについては波打ち際で幼生がたくさん取れており、今も海岸にいることが分かっている。
- ・楽観的に考えていいのか、という質問については、悲観的になることは今のところない。

[参加者]

- ・地元である石崎浜、大炊田海岸、二ツ立を毎年観察してきた。平成 26 年に大炊田海岸の埋設護岸（サンドパック）の工事が終わってから、台風が来るとサンドパックが露出して、埋めることを毎年繰り返している。だからアカウミガメもなかなか上がってこられなかったのではないか。
- ・石崎川の左岸側のコンクリート護岸の前では、護岸の高さから砂浜までの高さが 3m ほどある。侵食しているのではないか。

[参加者]

- ・浜幅や海域土砂量の傾向変化を最近 1~2 年で評価するのは甘いのではないか。最初からずっと見た傾向評価になってるのであればよいが、1~2 年を見て増加傾向と言っているとしたら判断が甘いと思う。

[事務局]

- ・評価自体はグラフ等から客観的に行っていると思っているが、説明が効果を誇張していたかもしれず申し訳ない。事務局としても侵食を何とか食い止めている状況と認識しており、そういう状況を踏まえた今後の事業推進を考えている。

[コーディネータ]

- ・主観が入って「楽観的」に聞こえる可能性もあるので、効果検証分科会での説明の際は、データからの客観的な評価や説明の仕方に注意するようお願いする。
- ・効果検証分科会には、市民連携コーディネータも出席するので、専門家がどのような評価をするのか聞いてきて、市民談議所で報告したい。

[コーディネータ]

- ・工事予定の中の「サンドバイパス」という言葉は何か。「サンドバイパスをやるようなお金はあるのか。」という意見が出ている。もう一度簡単に事務局から説明してほしい。

[事務局]

- ・宮崎海岸では、砂は概ね北から南に動いているが、一ツ瀬川河口の導流堤により左岸（富田浜）から右岸（二ツ立）に移動する砂が止められ、宮崎海岸への土砂の供給が少なくなっているという状況を冒頭（侵食対策の 3 つの機能）で説明した。この止められている砂を、左岸（上手）から右岸（下手）にバイパ

スする、これがサンドバイパスである。

- ・サンドバイパスと言うと、パイプを渡して機械的に圧送する方法が一般的に思われがちだが、掘削して船で運ぶのもサンドバイパスであり、飛び越えて上手から下手に砂を移動することをサンドバイパスと言う。

[コーディネータ]

- ・「突堤延伸の漁業への影響についての検討・調整はどこまで進んでいるのか。突堤を造らないと土砂は止まらないでしょう。」という意見が出ている。

[参加者]

- ・埋設護岸の整備が終わって、浜崖の後退は止まっている。ただし、これは事業の最終の目的ではないと思う。いかに砂浜を回復するかが最終の目的で、そのために50m、150m、300mの3本の突堤で砂を止めるというのが結論だったと思う。突堤の工事がこの3年ほど、ほとんど進んでいない。埋設護岸は終わったので、今後は突堤の延伸が一番肝になると思う。

[事務局]

- ・皆さんのご意見の趣旨はよく理解している。突堤延伸の漁業への影響について、現在調整・確認を行うべきタイミングにきている。前回の委員会の中でも、50m以上の突堤延伸については漁業者とよく協議してくださいという話になっている。現在、漁業者と話をしているところである。
- ・この突堤延伸ができる、できないというのはみなさんのご指摘のとおり非常に重要な問題であり、慎重に進めなければならない。
- ・調整についても、事業主体である国土交通省だけで進めるのは難しいため、いろいろな関係者に協力してもらえるよう、調整しながら進めている。説明できるような段階になったら情報提供したい。

[コーディネータ]

- ・自分も宮崎海岸以外の場所で漁業者とお付き合いすることがある。いまここでオープンにできること、できないことがあるのもなんとなく推察できるが、都合の悪いことを言いたくないからではないとはっきり言ってほしい。

[事務局]

- ・もちろん、都合の悪いことを隠しているわけではない。

[コーディネータ]

- ・参加者の皆さんも、海岸事業に携わっていてそういう難しい問題もあるだろうなということは、今までの談議の中でなんとなく共有してきたと思う。今話し合いを進めており、市民談議所でオープンにできるようになったらちゃんと情報を共有して、突堤の進捗についても情報を共有するとの説明だったと思う。状況が変わった時には必ず市民談議所で報告してもらいたい。

[参加者]

- ・アブラヤシの油とともに、大きな課題であるプラスチックごみが非常に多い。

いろいろな方たちによる清掃活動できれいになるが、ちょっと波が来るとすぐにまた溜まってしまう。なお、ごみが一番溜まる付近にはアカウミガメは不思議に上がってこない。

- ・今後の検討課題として、ごみの問題も含めていろいろなものに目を向けていただくとありがたい。

[事務局]

- ・環境調査で海岸を歩いたり、船で回ったりしているが、自分たちの目線では、九州の海岸は昔からごみが多いと感じていて、最近になって特段増えたというのはあまり強く感じてはいなかった。

[コーディネータ]

- ・何十年前となると、そもそもプラスチック自体の使用量が現在より少ないなど、比較する時代によって感じ方は違うこともあるので、この点も視野に入れて今後の検討課題としてもらえればと思う。あるいは、市民の皆さんから、ごみの状況について意見をいただければ、議論するようにしたい。

[参加者]

- ・資料 p. 39 で、魚種が増えたというような説明があったが、原因は何か。

[事務局]

- ・説明中の話し方で誤解があったかもしれないが、一方的に種が増えたということではなく、評価としては例年と同じくらいという結果だった。海岸の生物は変動が非常に大きいので、調査において昨年見られた種が今年は見られないというのはたくさんある。今のところ、一方的に増えたとか減ったという感じではない。

[参加者]

- ・なぜ、このような意見を出したかというのと、養浜して砂浜が回復することによって魚種が増えたということであれば、漁業者に対する認識もいいのではないか。砂浜が沖に出ることによって魚種が増え、漁獲高も上がる。そうしたら、突堤も延伸できる。と考えた。

[事務局]

- ・砂浜や海の中の土砂量が増えることで、魚たちが生息する環境がよくなるのは間違いないと思う。そういった説明は漁業者に対して是非していきたいと思っているが、今、説明があったとおり、今回の結果をもって漁業者に説明できる変化はなかった。

[コーディネータ]

- ・せっかく漁業者が参加しているので、砂浜の状況が変わるととれる魚も変わるのか、教えていただきたい。

[参加者]

- ・砂浜の状況が変わって、魚が変わるという実感は大いにある。かつて宮崎海岸がよかったころは、クロシタビラメ、アカシタビラメ、アジやタチの小さいも

のや、ミツボシガニの小さいもの、トラガニ（通称）などがたくさんいた。今はそういうものは数が少ない。

[コーディネータ]

- ・砂浜の環境ととれる魚とは密着な関係にあることを、もっと漁業者やいろいろな人と共有していきたい。

[参加者]

- ・市民談議所の内容は、大変興味深い話で、もっと知りたい方は多くいると思う。市民談議所の広報（輪を広げる行動）をお願いしたい。
- ・10年以上前の事業初期のころ、住吉で開催された会議に参加したことがある。そのときはまだ方向性が定まっておらず、主催者の答弁もいまいまいちかなと感じていた。反対に、出席していた市民の方の、宮崎海岸を何とかしたい、昔はこうだったという思いを聞いて、おもしろいな、こういうことがあったんだな、こういうふうにしてもらいたいなと感じた。
- ・本日の市民談議所は、さきほどから話を聞いていると、おもしろいことばかりである。本日の出席者は、私と同世代もしくは先輩が多いが、若い人も絶対に聞きたい話である。いま、CSR活動の一環で企業が海岸清掃をすることが多いが、若い人がたくさん参加している。そういった人々に働きかけをして参加者の輪が広がり、ホールくらいの大きさのところでもやるくらいになれば、参加者の中にすごいアイデアを持っている人もいるかもしれない。
- ・アカウミガメのための砂浜清掃などはうるさいぐらいテレビで告知しているが、それに比べれば市民談議所の告知は、ほとんどされていない。なにか良い方法で広げていくとよいと思う。

[コーディネータ]

- ・現在市民談議所の広報はどのように展開しているのか。

[事務局]

- ・記者発表、ホームページとフェイスブックでの告知をしている。また、これまでの参加者には直接お知らせしている。新聞でも広報してもらっている。
- ・年に数回「よろず相談所だより」を回覧しているが、これを今年の委員会でもっと広げてほしいという意見があったため、これから対応予定である。
- ・特に、資料 p. 57 で説明した「宮崎海岸サポーターズ」も市民談議所を知ってもらおうきっかけになると考えて取り組んでいる。

[コーディネータ]

- ・地域によって効率的な広報の仕方は違う。回覧板がいいところもあれば、戸別配布がいいところもある。「うちの地域だったらこういうことをやったらみんなが見る」というように、広報の方法も積極的に国土交通省に提案していただきたい。

[コーディネータ]

- ・市民談議所にたくさんの人に来てもらいたいという思いはずっと前からあり、

かつてはスーパーにチラシを置いていた時期もある。結果としてあまり効果は得られなかった。

- ・いまは口コミの時代でもあるので、今日参加した方が、身の回りの方々に「おもしろかったよ、行ったほうがいいよ」ということを伝えていただくことで、広がっていくのではないかと思う。
- ・我々ももっと皆さんに興味を持ってもらえるような市民談議所の進め方の工夫をしていかなければいけないと思っている。

[参加者]

- ・宮崎海岸の取り組みで、みんながハッピーになれるといいと思う。いろいろな利害に関する人がいると思うが、みんなが幸せになれるといいんじゃないかという願いを込めた。

[コーディネータ]

- ・海岸の事業を通して、宮崎の市民やかかわる人みんなが幸せになってほしいということで、私も同感である。そういう事業にできたらと思う。

[参加者]

- ・最近の温暖化の傾向について考え方を提示していただきたい。

[コーディネータ]

- ・これまで、温暖化についてどのように取り組んできたかということコーディネータから説明しておきたい。温暖化が侵食の要因の一つなのではないかという意見は、市民談議所が始まる前から継続していただいております、事業主体もコーディネータも気にかけている。
- ・侵食対策検討委員会でも当初のところで議論しており、温暖化の影響が無視できない、海面上昇が無視できないということが観測されれば対応しないといけないが、現段階ではそれを前提にいろいろなものを設計するのはペンディングにしておこうというのが当初の立場である。
- ・効果検証分科会では毎年観測をしているので、その中で必要性を判断するということが位置づけられている。
- ・参加者の懸念は、それでは遅いのではないかということかと思うが、予算の面も考慮してそのように対応している。本日いただいた意見についてはまた委員会で伝えていく。

以上

付箋紙記載の市民意見

分類	地点	記載内容
工法	一ツ瀬川河口	サンドバイパスとは？
工法	一ツ瀬川河口	図師部長の時代とてもサンドバイパスをやる金は無いられたが、出来るの？
対策効果の評価	9.0k	大炊田、石崎5年間くり返し変化なし
海底地形	9.0k	最近大炊田生れの老人に少年時代海で泳いでいた、沖合いに背の立つ場所があったそうです。砂浜は後退していますが海中の浅瀬は如何でしょうか。
浜崖	8.2k	石崎浜 砂が3m位取られる
対策効果の評価	3.0k	短期間での横ばい、増加傾向の判断はあまい
	3.0k	侵食対策について楽観視 (理由) ①洪水後、飛行機から一ツ瀬川を見たとき、まっ茶色の河水が河口(導流堤)の先端から真南へ大量に流れ出るのが見えた。 ②砂はある一定以上堆砂しないと急げきに回復しないと思われる。
	3.0k	砂が付きはじめています。良いけいこう!!
養浜	2.0k	余盛養浜の実施 他事業からの養浜材料を直接海岸供給したら経費も安くなる
	2.0k	粗粒材養浜の実施する参考とする海岸名は教えて下さい。
突堤	2.0k	今後の対応方針の最後 漁業への影響についてはどこまでやっているの 突堤はどうなっているの 作らないと砂は止まらないでしょう
	2.0k	突堤(300m)の整備が砂をとめる最大の武器ではないですか。
市民談議所	-	大変興味深い話 もっと知りたい方は多くいると思います。その対策というか広報をお願いしたい。
全体	-	宮崎海岸の取り組みでみんながHAPPYになるといいと思います
温暖化	-	最近の温暖化傾向についての考え方を提示して頂きたい。
ごみ	-	なぜ今年はゴミが溜まりやすいのでしょうか。
環境	-	魚種が増えた原因は何か。何年前との比較か。

